

令和6年度蔵書評価実施報告

実施日	令和6年8月30日(金) 10:00~12:00 令和7年1月25日(土) 15:30~17:00
評価分野	音楽・演劇(分類番号760~779)の図書及び雑誌
評価者	県立学校音楽教諭 1名 (8/30実施 音楽分野) 大学院大学教授 1名 (1/25実施 演劇分野)
評価方法	評価分野の蔵書を評価者が確認し、専門家の視点から蔵書の構成や排架などについて気づいた点を指摘する。

〈評価結果(概要)〉

○総評・留意点

- ・社会の変化・現状を見極め、必要と思われる資料の充実を図るとよい。

○分類別評価

- ・福祉における音楽の影響が注目されているので、関連本を充実させるとよい。
- ・音楽を使った仕事についての本が充実するとよい。近年、PCを使った音楽の仕事も増えてきているため、時代に合った内容の本があるとよい。
- ・オーケストラの全集で、かつ手にとりやすいものがあるとよい。
- ・デジタル関連資料について、サービス終了するものもあるため、需要を確認する必要がある。
- ・音楽理論については、小学生レベルでも分かるような、より平易なものがあるとよい。
- ・Jポップの音楽理論もあるとよい。
- ・日本現代ポップスの自伝が少ない。
- ・近年注目されているKポップについても増やした方がよい。
- ・楽器に関する蔵書数が少ないので、新しいものを充実させるとよい。
- ・学校教育において、和楽器を扱った授業が必修化となった。箏や三味線、和太鼓等の楽譜が充実するとよい。
- ・岐阜県の民謡や盆踊り等についての楽譜や資料があるとよい。
- ・各劇場史は、幅広く収集するとよい。
- ・演劇史について、近現代を対象とした著作物は多数出版されているが、古い時代ほど少ないので、古い時代のものを意識的に閲覧室に排架するとよい。
- ・歌舞伎などの全集について、シリーズすべてを開架に出すことが困難な場合は、各シリーズ1冊ずつ、または索引を閲覧室に排架するとよい。
- ・能楽について、能面の「作品集」もあるとよい。
- ・狂言について、全体的に少ない。入門書がもう少しあるとよい。

- ・舞台俳優のエッセイ、自伝がもう少しあるとよい。
- ・ミュージカルについて、著名な劇団以外にもあるので、幅広く収集するとよい。
- ・人形劇は、人形遣いの写真集を収集するとよい。
- ・大衆演芸は、大道芸の本も、もう少しあるとよい。

〈今後の対応〉

- ・指摘を受けた分野、紹介された資料の収集を検討する。
- ・社会の変化（デジタル関連情報、世間の注目度）、学習指導要領の内容を把握する。
- ・郷土関連資料、診療関連資料、宗教関連資料、教育関連資料は、他分類に排架されることが少なくないので、意識的に把握し充実に努める。